



みなさんの ポッポおひさま発電所 サポーター通信 No.4

2008. 8. 20

残暑お見舞い申し上げます。

今年の夏は酷暑、局地集中豪雨、突風・竜巻などの異常な気象現象が多発し、地球温暖化が将来の問題ではないという切迫感がいつになく高まったように思い

ます。皆様にはお元気で過ごしてでしょうか。

ポッポおひさま発電所は、暑さ・寒さにかかわらず毎日発電を続け、いわば地球温暖化防止の最前線で黙々と戦っています。

ポッポおひさま発電所

グリーン電力証書を完売

今注目のグリーン電力証書

京都議定書での日本のCO₂削減義務は1990年比6%。しかし2006年時点で、逆に6.4%も増加してしまっており、達成が危ぶまれています。これは、わが国の温暖化防止対策が、発電を自然エネルギーに切り換えることによってCO₂を削減する、エネルギー転換の分野で大きく立ち遅れているためです。

そこで、今注目されているのが、自然エネルギーの環境価値を「グリーン電力証書」にして販売し、自然エネルギー普及を支援する制度です。温暖化への危機感から民間レベルで自然エネルギー普及に積極的にとりくむ個人・団体（企業）が、グリーン電力証書を購入しています。

環境問題に取り組む企業イメージをアピールしながら、自然エネルギー普及への経済的支援を行っているのです。

地方自治体でもグリーン電力証書の購入によって、庁舎内で使用する電力のグリーン化をすすめたり、入札企業の資格条件に消費エネルギーのグリーン化率を定める

地元企業などから購入申し込み



三洋商事がグリーン電力証書で製作した絵本

ところが増加しています。

ポッポおひさま発電所は、昨年12月から2007年11月までの1年間の発電量のうち約8,912kWhについて、



グリーン電力証書の販売を開始しました。販売希望価格は、10円/kWhです。

3月までに、地元東大阪の三洋商事(株)から8千kWh、NPO法人東大阪市民環境会議から912kWhの購入申し込みをそれぞれ受け、2007年度分を完売することができました。

三洋商事(株)は創立50周年記念事業として実施している社会貢献活動の一つ「絵本の発行」をグリーン電力証書を活用して行う計画です。

絵本の主人公は森の住人・ハッピー。大気や水など環境汚染と闘って森の動物や植物を守る物語です。今回発行の2号からポッポおひさま発電所のグリーン電力証書を購入したと「PV グリーン」のマークが表記されました。三洋商事(株)には、今回分を含めて5年間の継続購入予約をいただきました。

NPO法人東大阪市民環境会議は、会創立10年記念に永年会員への感謝状に「グリーン電力証書」を付けて贈呈されました。グリーン電力証書を記念品にするというユニークな活用方法に注目です。

その後、日本生協連からも2008年度分の予約が入っています。

三洋商事(株)の桐畑取締役は、ポッポおひさま発電所のグリーン電力証書にこだわる理由として「創立50周年を期に環境問題への貢献を重視する当社として、地元の保育園の太陽光発電のグリーン電力であることが大きな



創立十周年の記念品に、
グリーン電力証書を贈る

特定非営利活動法人 自然エネルギー市民共同発電

発行責任者：早川光俊

〒540-0026 大阪市中央区内本町2丁目1-19-470

Tel:06-6910-6301, Fax:06-6910-6302

E-mail:wind@parep.org, URL:http://www.parep.org/

ストップ地球温暖化！シロクマくんを助けて！

「洞爺湖サミット」へ訴える ― グリーン電力証書伝達式

子どもたちの見守る中、岡園長からグリーン電力証書が手渡されました



7月8日、グリーン電力証書を三洋商事㈱に手渡す伝達式を、ポッポ第2保育園で行いました。

ちょうど北海道・洞爺湖での主要国首脳会議＝サミット開催と同時期となったので、日本政府が地球温暖化防止にリーダーシップを発揮するよう求めるパフォーマンスになれば、という期待も込めて実施しました。

式では、シロクマとペンギンの帽子を頭に載せた園児40名が歌を披露。自然エネルギー市民共同発電の和田代表理事が「地球温暖化防止は猶予できない段階に入っている。最大の被害者は子どもたちである」と式辞を述べた後、ポッポ第2保育園の岡園長から三洋商事㈱の桐畑取締役役に証書が手渡され、拍手に包まれました。

地球温暖化の影響で北極の氷の融解が急速に進み、氷の上でアザラシなどを餌にするシロクマの絶滅が危惧されています。南極のペンギンも棚氷の崩壊による

餌のオキアミの減少の影響を受けているといわれます。

子どもたちがかぶった、シロクマとペンギンの帽子は、「シロクマとペンギンに代わって地球温暖化の危機を伝えよう」とサポーター会員が協力し、ハサミと画用紙で手作りしたものです。

2008.7.8 毎日新聞夕刊



三洋商事㈱の環境絵本の贈呈先を募集中！

ポッポおひさま発電所のグリーン電力証書を使って作成された環境絵本（同封）を贈呈します。幼稚園や保育園などの贈呈先をご紹介します。絵本は無料ですが、部数についてはご相談ください。

お問合せは、

NPO 法人自然エネルギー市民共同発電まで

発電量 2 万 7 千 kWh、CO₂ 削減量 1 9 トンに

ポッポおひさま発電所の今年の発電状況は、6月まで天候不順で、昨年の発電量を大幅に下回っていましたが、7月に一挙に取り戻しました。昨年7月の日射量が低かったこともあり、好天に恵まれた今年は昨年を45%も上回り、年度始めからの発電量でも昨年度実績を上回りました。

稼動開始からの累計発電量は、27,275kWh になりました。

この間に積み上げた

CO₂ の削減量は、18,820kg

に達しました。これは地球

温暖化防止への大きなそ

して確実な貢献です。（削

減量の計算は火力平均係数

0.69kg/kWh を適用）

サポーター会員の協力

が、このような素晴らしい

成果を生み出していること

を報告できるのは、私たち

の大きな喜びです。

発電量のうち、約8割がポッポ第2保育園の保育活動に使われ、2割が電力会社に売電されました。電力会社が「太陽光発電の環境価値も含めて買い取っている」と主張しているため、8割の自家消費分をグリーン電力証書としての販売対象としています。

	発電 日数	日射量 (kWh/㎡)		発電量 (kWh)		発電 効率	自家消費と売電 (kWh)			自家消 費率
			前年比		前年比		売電量	自家消費量	合計	
2005 年度計	38	141.2	—	1,171.9	—	0.83	115.0	610.2	725.2	0.84
2006 年度計	365	1,354.7	—	10,977.1	—	0.81	2,265.0	8,734.9	10,999.9	0.79
2007 年度計	365	1,404.2	1.04	10,589.3	0.96	0.75	2,186.0	8,412.0	10,598.0	0.79
2008 年度	4月	30	136.0	0.98	1,114.5	0.96	255.0	750.0	1,005.0	0.75
	5月	31	149.0	0.94	1,207.0	0.93	482.0	896.5	1,378.5	0.65
	6月	30	118.0	0.86	974.2	0.88	207.0	830.7	1,037.7	0.80
	7月	31	161.4	1.45	1,241.5	1.40	159.0	777.3	936.3	0.83
	計	122	564.4	1.04	4,537.2	1.02	1,103.0	3,254.5	4,357.5	0.75
総合計	890	3,464.5		27,275.6		0.79	5,669.0	21,011.6	26,680.6	0.79

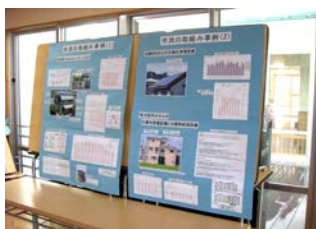
※発電量は月末まで、売電量は20日まで

累計 CO₂ 削減量 18,820.2kg

地域から考える地球温暖化

ポッポ第2保育園環境イベントを開催 (2月)

ポッポおひさま発電所が設置されているポッポ第2保育園は、社会福祉法人ポッポ鴻池福祉会が運営する二番目の保育園です。



資料展示

ポッポ保育園は、1969年共同保育所として誕生しました。高度成長末期、都市部では人口急増に伴い保育所不足が深刻になり、行政の立ち遅れを補うために、父母たちが自ら作り運営する共同保育所が全国に誕生しました。ポッポ保育園もそのような共同保育所の一つとして「ポッポ保育園を守る会」に結集した草の根の力に支えられて、地域の保育ニーズに応じてきました。

90年代末からの「保育所待機児ゼロ作戦」の下で共同保育所から認可園への動きが強まり、共同保育所への助成打ち切りにより存続が困難となりました。そこで02年に新園舎完成とあわせて社会福祉法人化を実現、つづいて05年にポッポ第2保育園を完成させ、ポッポおひさま発電所の設置へとつながっていったのです。

保育園と地球環境問題

園には、ポッポおひさま発電所を地域で地球環境問題



スライド学習会

を考えるきっかけにしたい、という思いがありました。

今や地球温暖化に無関心でいられる人はいないでしょう。しかし、まだ学齢以前の子供たちに理解できる内容ではありませんし、保育士さんに関わってもらいにしても、現状でも多忙を極めている保育所の業務に、環境問題を加えることは容易ではありません。子育て中の若いお父さんお母さん方にしても、時間的余裕が十分あるわけではありません。

岡園長は、まずおひさまの恵みにこどもたちの関心を向けようとおひさまの絵本を読み聞かせることからはじめました。保育士さんは、自分たちも勉強しながら太陽光発電のしくみを絵にしてこどもたちに見せました。そしておひさまの大きな絵をみんなで作りました。「ぼくら太陽の子」という歌もみんなで歌えるように練習しました。

園に出入りする会のスタッフに「おひさまのおっちゃん」とこども達から声がかかるようになりました。会員が作ったシロクマの着ぐるみがイベントでこども達の人気者になりました。昨年11月には「一村一品知恵の環

づくり大阪大会」で、こども達が出演したポッポおひさま発電所の発表が優秀賞に選ばれました。

こうした積み重ねを踏まえて、今年2月ポッポ第2保育園主催の環境イベント「地域から考える地球温暖化」が開催されることになったのです。

初めての地域環境イベントに200名以上が参加

イベントはポッポ第2保育園全体を使って行われ、

1Fホールでは地球温暖化問題・自然エネルギー・園でのとりくみの展示が行われ、フロアーではプラ風車工作コーナーが大人気でした。2Fの保育室では手回し発電機・BDF製造実験・燃料電池実験などの自然エネルギー実験コーナーと地球温暖化スライド学習が行われました。園庭では、風力発電実験やソーラークッカー(太陽熱を使った調理器)・太陽光発電・自転車発電・廃食用油を使ったローソクづくりなど、バラエティーにとんだ出し物が並びました。



ソーラークッカーで目玉焼き

このイベントには、自然エネルギー市民の会・CASA・おおさか市民ネットワーク・ポッポ保育園を守る会が協力し、東大阪市・東大阪市教育委員会が後援を行いました。地域の諸団体、自治会、小学校などにも案内して参加を広げることも目指しました。

時おり小雪まじりの風が吹く寒い日でしたが、園児やその家族のみなさん、一般市民も加わって200名以上の参加があり、初めての取り組みは大成功に終わりました。

今後も継続して開催へ



プラ風車工作が大人気

た。

保育園による地球環境問題でのイベント開催は、おそらく全国でも初めての試みと思われます。終了後、岡園長は「この取り組みを通じて、園にかかわる人たちが地球環境問題を学習できたことが、大きな成果です。地球温暖化の最大の被害者はこのこども達です。今後もこの企画を継続してゆきた

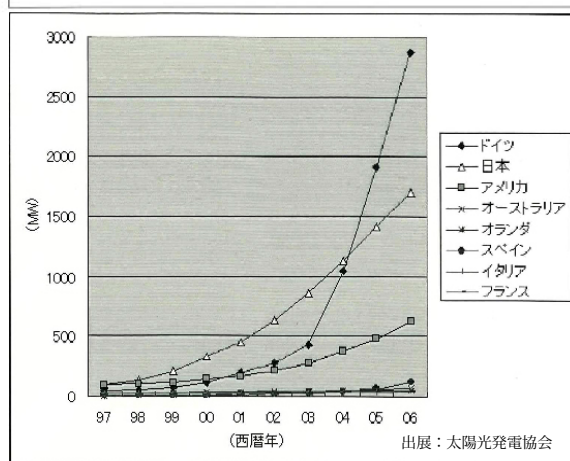
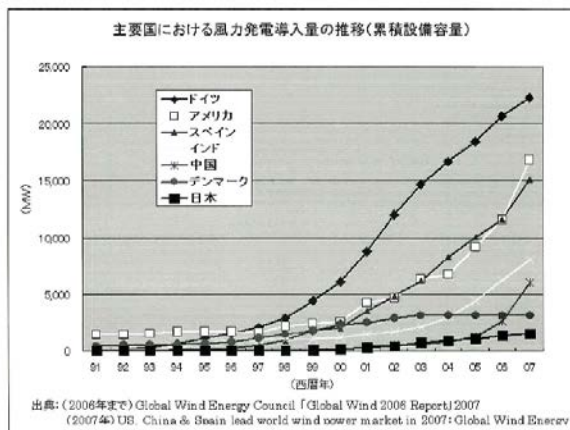
2007年度事業報告

発電量	10,589 kWh
建設協力者数	35 名
建設協力金口数	40 口
建設協力金返済額	18 万円
建設協力金残高	382 万円

2007.4.1～2008.3.31 (単位円)

発電収入	208,918	支出計	387,447
会費収入	108,000	収支差額	▲69,378
その他収入	1,151	前期繰越金	2,499,482
収入計	318,069	次期繰越金	2,430,104

日本でもようやく注目される、買取補償制度 (FIT)



自然エネルギーの導入で立ち遅れる日本

風力発電の導入量でトップを占めるドイツの累計導入量(2007年)は22,247MWで、わが日本はその1/7。中国にも05年に抜かれてから現在では4倍の差をつけられています。

太陽光発電は日本が導入量で世界のトップを走って来ましたが、05年にドイツに抜かれ、06年ではドイツの2,863MWに対して1,000MW以上の遅れを取りました。

ソーラーパネルの生産量でも日本のシャープが世界トップから転落し、替わってドイツのQセルがトップに立ちました。

地球温暖化防止策の切り札として、世界中が自然エネルギーブームに沸く中で、なぜ日本だけがこれほどまでに立ち遅れているのでしょうか？それは政策の違いです。

自然エネルギー導入を阻害する RPS 法に固執

わが国では、2002年に「新エネルギー等電気利用法」(以下RPS法)が導入されました。これは、自然エネルギー普及をめざして「買取補償制度」の導入を求める環境団体の予先をかわすために経産省が持ち込んだもので、当初から「自然エネルギー促進法ではなく阻害法だ」と批判されていました。

RPS法は、各電力会社に自然エネルギー(法律では新エネルギーと呼称)発電の目標達成を義務づけましたが、その目標値が2010年までに総電力の1.3%という目標とも言えない低いものでした。風力発電のさかんな北海道、東北、九州などでは早々とこの目標をクリアし、以後電力会社は条件付でしか受け入れない方針を打ち出したため、風力発電の伸びが止まりました。四国、中国などもこれに追随しています。

2007年为目标見直しの時期とされましたが、電力会社の抵抗の前に1.6%という見直しともいえない水準で着しました。

世界各国では、15%～20%という目標設定が常識になっているなかで、この低さは異常です。

ここが違う「買取補償制度」

一方、自然エネルギー普及で急成長しているドイツなど多くの国で採用されているのが「買取補償制度=Feed In Tariff=FIT」(固定価格買取制度)です。

自然エネルギー発電事業者が投資回収できる価格でかつ必要な期間、電力を全量買取することを電力会社に義務付けています。太陽光発電の場合、60～70円/kWhで買取りますから、事業者・市民は安心して太陽光発電を導入することができます(日本の買取価格は、10～24円/kWh)。牧場や有休地などに大規模な太陽光発電が急速広がっているのです。

買取価格は、設備価格のコストダウンの進展を反映して漸次低下してゆく方式になっています。設備価格の高い初期段階でも、電力の買取価格が高いため急速に導入が進み、量的拡大が設備価格の低下を生むという相乗効果で、一挙に導入が進んでいるのです。

「買取補償制度」への世論の形成

洞爺湖サミットを前にして、経済産業省が「2～3年後に設備価格を半額にすることをめざして家庭向け太陽光発電設備補助を復活する」という方針を発表したとたんに、太陽光発電の導入キャンセルが相次ぎ業界が混乱という「事件」が起きました。このことは、設備補助金に頼る政策の破綻を如実に示しています。

高い価格で電力を買取ることによるコストは、電源開発や道路など特別会計の一般財源化や料金体系の見直しによってまかなうことが可能です。地球温暖化を防止し、子々孫々まで持続可能な脱炭素社会を実現するために、こうした政策枠組に国民の合意をつくり上げる事が、今求められています。

「買取補償制度(FIT)」については、これまでマスコミ等で取り上げられることはまれでしたが、新聞・TVなどでも議論の対象になりはじめています。

昨年9月にNHKの「ニュース7」が「市民共同発電所は地球温暖化防止に大きな効果が期待されていますが、日本では採算性が低く普及が進んでいないのが課題です。こうしたなか全国の市民共同発電所の代表が大阪で集会を開き、発電した電力を高く買取よう国の制度の見直しを求めてゆくことになりました」と伝えたのがその口火になったように思います。その後その他のニュース番組でも取り上げ始めました。

ようやく日本でも変化が現れ始めています。

